

# たまねぎ

担当者 技能研究員 戸津 政紀

試験課題名	品種系統選定試験
目的	本町に適した多収・高品質・良食味品種を選定し、生産農家への普及に資する
期待される成果	地域適合複数品種栽培により生産性向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所

## 1 供試品種・資材

品種

スーパー北もみじ(七宝)      イコル(タキイ)      カムイ(タキイ)  
ウルフ(タキイ)      ひぐま(タキイ)      『HM-01(大学農園)』  
『参考調査』

## 2 耕種概要

土質～埴壤土

前作～たまねぎ

播種日～3月21日      定植日～5月13日      収穫日～9月12日

栽植密度～畦幅30cm×株間10cm      33,333株/10a当たり

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.5	0.041	51.4	43.1	50.1	137.9	5.8

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

太古の風化貝～60kg      高度燐特号～50kg      堆肥～2,000kg

### (3) 施肥内容 (成分量/%)

基肥～ネオトーマス有機( 3.67 - 5.17 - 2.57 )      5月12日      全層施肥

基肥～N S 2 6 2 ( 12.0 - 16.0 - 12.0 )      5月12日      全層施肥

### (4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基肥	ネオトーマス有機 100kg	3.7	5.2	2.6
	NS262 80kg	9.6	12.8	9.6
合計		13.3	18.0	12.2

## 4 調査項目

生育調査～播種日・発芽期・発芽率・定植時の苗質・定植日・倒伏開始

収量調査～総収量・規格別収量

## 5 生育調査

項目	品種	スーパー北もみじ	イコル	カムイ	ウルフ	ひぐま	HM-01
播種日		3月21日					
発芽期		4月3日	3月29日	3月29日	3月29日	3月29日	3月29日
発芽率(%)		97.7	99.6	99.1	99.7	99.7	98.3
定植時の苗質	生葉数	3.0	2.7	2.7	2.5	2.7	3.2
	葉長	24.3	29.9	34.3	25.8	32.7	28.6
定植日		5月13日					
倒伏開始		8月9日	8月10日	8月11日	8月4日	7月30日	8月19日

## 6 収量調査

項目	品種	スーパー北もみじ	イコル	カムイ	ウルフ	ひぐま	HM-01
総収量(kg/10a)		6,490	6,294	5,771	5,020	4,531	8,088
規格別割合(%)	2L	4.2	2.4	1.2	0	0	14.8
	L大	17.6	18.7	10.4	6.3	1.3	29.0
	L	46.7	47.6	48.0	33.3	26.5	36.4
	M	26.1	27.7	31.8	46.6	51.0	18.5
	S	5.4	3.6	8.6	13.8	21.2	1.3

※規格 1球重 150～300g 2L 9.0cm以上 L大 8.0～9.0cm未満 L 7.0～8.0cm未満 M 6.0～7.0cm未満 S 5.0～6.0cm未満

## 7 病害虫防除履歴

殺虫剤			殺菌剤・除草剤		
5月13日	VC乳剤	1,000倍	6月13日	ダコニールエース	750倍
6月13日	エルサン乳剤	1,000倍	7月10日	フロンザイド水和剤	1,000倍
7月10日	アディオオン乳剤	3,000倍	7月31日	シルバキュアフロアブル	2,000倍
7月31日	スミチオン乳剤	1,000倍	6月17日	アクチノール(除草剤)	150ml
8月12日	アディオオン乳剤	3,000倍			

## 8 試験結果概要

### (1) 生育経過

- ① ハウス内の直播で3月21日に播種。発芽は3月29日に始まり最も遅かったのがスーパー北もみじとなった。発芽率はウルフ・ひぐまが高く99.7%となっている。
- ② 定植は5月13日に行った。定植時の苗質は、生葉数でHM-01が3.2枚の最多となっている。葉長はカムイが34.3cmともっとも長い。つぎにひぐまが32.7cmとなっている。
- ③ 倒伏開始はひぐまが最も早く7月30日に始まりウルフ8月4日、スーパー北もみじ8月9日、イコル8月10日、カムイ8月11日でHM-01が最も遅く8月19日となった。

### (2) 収量調査と考察

早魃の影響はあったがその後天候に恵まれて生育も回復し、おおむね順調に推移した。10a当たり収量はスーパー北もみじの6,490kg>イコルの6,294kg>カムイの5,771kg>ウルフの5,020kg>ひぐまの4,531kg>の試験結果となった。規格別割合のL球以上の割合は、イコル68.7%、スーパー北もみじ68.5%に対し、ウルフ39.6%、ひぐまの27.8%はM球サイズ以下が多い結果となった。HM-01は参考品種として調査したが、収量も高くL球以上の規格割合も高いので、次年度も検討を継続したい。